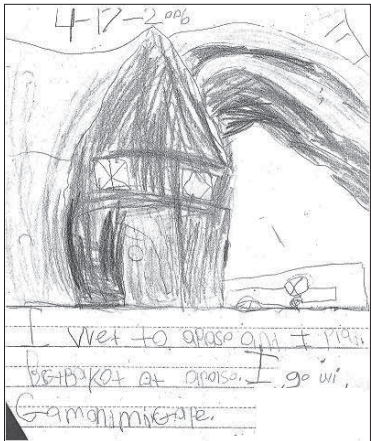
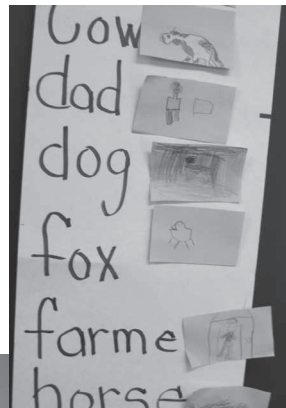


小学校6年間の「書き方」の記録：幼稚園から5年生まで

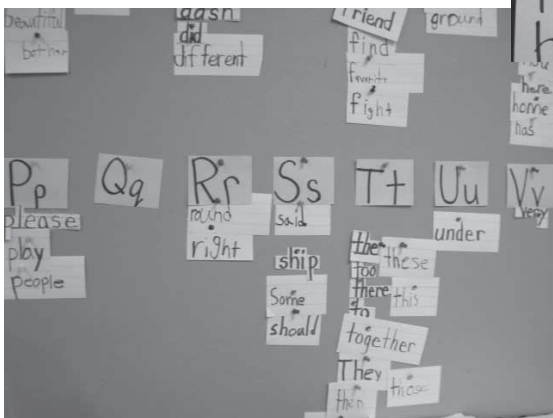
アメリカの小学生は、実際どのように書き方のメカニズムを理解し、身につけていくのでしょうか。日本の小学校にあたる幼稚園～小学5年の6年間を過ごした少年・アイゼア君の作品を時系列にたどり、その成長の過程を見ていきたいと思います。



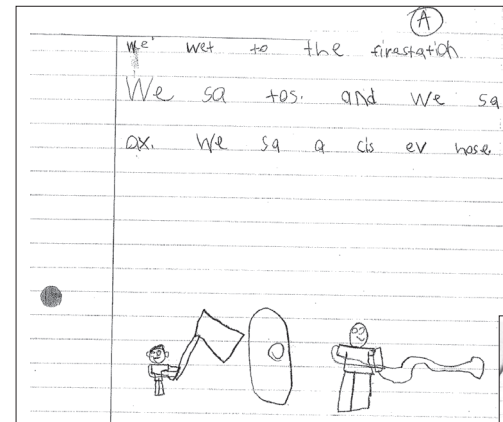
左：幼稚園のころの作品。絵と、聞こえた発音の通りにつづりを書いた「インベンティブ・スペリング」で自分の言いたいことを精いっぱい表現しています。



上：幼稚園の教室では、絵を中心とした絵辞典で単語をおぼえます。

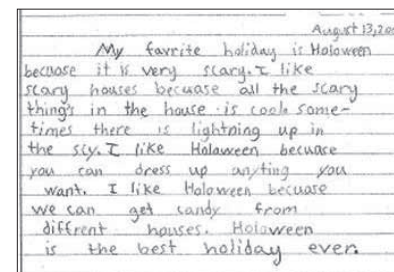
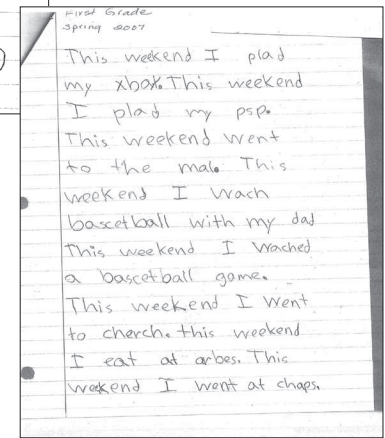


左：ワード・ウォール(壁に貼られた単語リスト)は、さらに単語の学習を強調します。

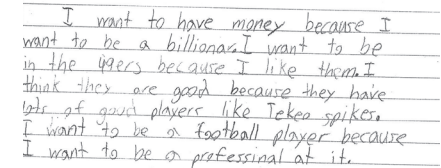
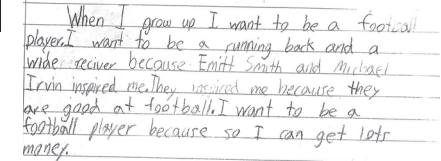


左：消防署に社会科見学へ行ったときのことを書いた、1年生のはじめごろの作品。まだまだ音に頼ったインベンティブ・スペリングがたくさん見られます。

下：I watched, I playedと単純な文を繰り返していますが、だんだんと長い文章を書くようになってきているところに変化が見られます。



上：3年生時の作品。ぼくはハロウィンが好きだ→ではなぜハロウィンが好きか、because...と、理由をはっきり述べるまでに展開しています。



右：4年生時の作品。「大人になったらフットボールの選手になりたい」という文章です。まとまったパラグラフが3つあり、かなりまとまった文章になってきました。andやbecauseで文をうまくつなげており、一文ごとの長さも長くなっています。